



6月11日オープンスクール開催

大運動会の興奮が冷めやらぬなか、11日（日）の第1回目のオープンスクール&学校説明会には、本校保護者の皆様ほか、100名近い参加者があり、入学希望児童43名とその保護者、幼稚園等関係者や法人・大学関係者12名と盛況でした。学校説明会では、児童会長の谷川凛和さんが、自身のオープンスクール参加の時の話に始まり、これまでの行事等の楽しい思い出を堂々語ってくれて、参加者が我が子の6年後の姿や歩みを想像できたように感じました。以下、当日の感想です。

1つは、授業についての肯定的な感想が多かったこと。「少人数で、先生と子ども達が顔をしっかりと見合って安心して授業ができている」「子どもが大変積極的に授業に参加して盛り上がっていた」「探究力、創造力、行動力をより深めて、個の心身の育ちを支え伸ばして下さるところが私立ならではの。理想が現実となっていてうれしいです」などです。教職員一同、子どもが主体となる授業や力が付く授業にしたいなど、常に願いながら、試行錯誤の毎日です。教育の世界は青天井です。ようやくここまで来たと思っても、さらに上の世界があります。職員一同が、切磋琢磨して改善に努めます。

2つめは、英語への期待や注目が多いこと。「イングリッシュタイムがとても盛り上がっていた。子どもたちもとても楽しそう」「子どもが、英語の授業に参加してみたいと言っていた」「英語の公開授業が1年生だけだったので、次回は高学年をみたい」などです。確かに、週当たり、1~4年生が2時間、5・6年生が3時間という時間数に加えて、ネイティブ含めて専任教師2名による授業体制もありますが、何より付けたい力を意識しつつ、楽しい授業や集会を目指している本校職員や英語委員会の児童の意識が何より影響していると思います。修学旅行や総合的な学習の時間などとの関連も模索していきます。

3つめは、本校図書館が盛況であったことです。公開授業中に図書館を通ったら、何と図書館で本を読んだり本棚を見たりする親子約30名でほぼ満席。「図書室の雰囲気の子供が気に入って、すぐに本を見つけて寛ぎながら読んでいた」「はじめて図書館を見学しました。Good!でした」などの感想もありました。保護者の方にお聞きすると「引き込まれた」との言葉も。

今後とも、学ぶ子どもの視点で環境を整えつつ、学校の教育目標の実現を目指して、より広く、より深く学ぶ姿を創り出せるよう、教職員一同、研究と修養に努めて参ります。鋭くもあたたかい目線で、ご支援くださいますようお願いいたします。



⇒裏面に続きます。

交流広がる

明豊キャンパス内には、明豊中学・高校や明星幼稚園があり、最長で12年間の学びが積み重ねられます。保護者の会の皆様のご支援も多様にいただいています。それらを生かし、今年度、以下のような交流活動を実施しています。明星小ならではの、本物とふれ合い本物から学ぶ活動です。

◇内川聖一選手との交流

6月22日(木)に、WBC選手経験者でもあり、現大分B-リングス所属の内川聖一選手と交流会をもつことができました。加藤先生との本気のキャッチボールや代表児童3名とのキャッチボールのほか、佐藤与先生とのホームラン競争では、3本の柵越えを披露していただくなど、アスリートとの交流に全校児童の歓声に包まれました。

その後、キャリア教育を総合的な学習の時間に取り組む5年生に対して「夢をあきらめない」ことの大切さを話し、なりたい職業や仕事に向けた計画や取組を今から始めること、勉強も大切なことを伝えて、児童は、将来への夢をより強く抱いたようです。



◇明豊高校野球部員によるボール投げ指導

6月6日(火)には、昨年度に続き、体力測定学年の5年生が、ボール投げ指導を受けました。甲子園常連者からボールの投げ方を教わり、みるみる上達して飛距離が伸びていました。終了後は、ドッジボールでつかの間のふれ合いタイム。高校生もそれを楽しんでいました。

◇ワンダフルデイを再開しました！

6月23日(金)は、コロナ禍で、中断していた明星幼稚園との交流「ワンダフルデイ」を実施しました。3回計画の1回目は、高学年が担当。5,6年生と5歳児さんが、じゃんけん列車や、風船運びなどで楽しみ、最後はメダルのプレゼント。2回目は低学年、3回目は中学年が担当。

小学校入学前は、何かと不安が伴うもの。このような活動を通して、頼れるお兄さん、お姉さんや学校そのものを感じ、安心して入学してくることが大切です。幼児の目線や背丈に合わせて行動する優しい高学年児童に拍手です。

